

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2023年												2024年						
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~2日	6月 ~9日
カンピロバクター	48	30	46	63	57	67	75	49	29	47	43	65	20	24	38	25	57	15	8
病原性大腸菌	47	37	55	103	120	108	102	56	52	49	80	102	43	61	105	92	79	12 (13)	13
腸管出血性大腸菌	1	1	4	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	1	0	1
サルモネラ	7	2	2	7	7	13	25	6	12	15	6	9	4	4	2	7	5	1	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	15	10	13	14	21	8	12	15	18	21	18	16	6	4	16	4	12	4	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	13	10	14	15	14	10	11	11	9	5	9	16	8	6	12	6	3	0 (2)	5
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	2	0	0	4	8	2	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0
ロタウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
ノロウイルス	14	11	6	1	1	0	0	0	0	0	0	4	9	20	10	3	4	0	0

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和6年第23週(6月3日~6月9日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	2	結核	2			1		1		
三類	4	腸管出血性大腸菌感染症	4	1				3		
四類	6	A型肝炎	1	1						
		重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	1	1						
		日本紅斑熱	4			1			1	2
五類	14	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染	2				1		1	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4					2		2
		梅毒	8	1	1	1		3		2

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 手足口病

定点当たり5.59人の報告があり、前週の約1.4倍に増加し、警報レベル(定点当たり5)を上回りました。

2 ヘルパンギーナ

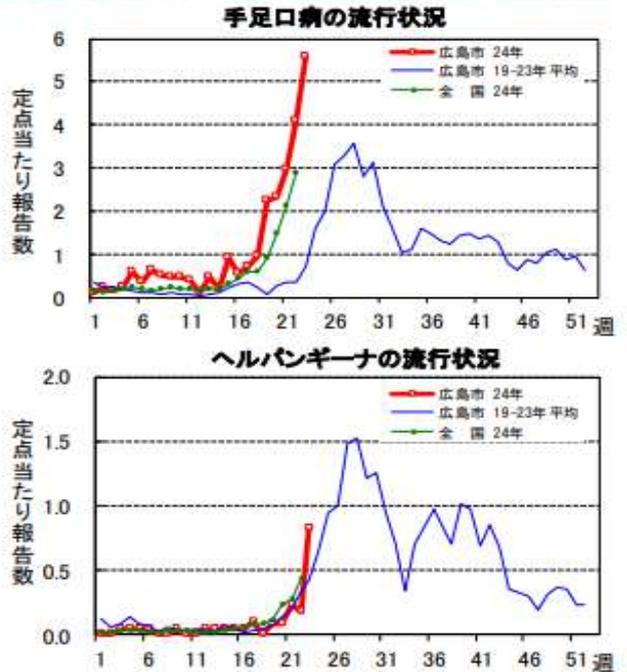
定点当たり0.82人の報告があり、前週と比べて大きく増加しました。ヘルパンギーナは、いわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患の一つです。感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染です。回復後も2～4週間程度、便中にウイルスが排泄されますので、手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり2.49人の報告があり、前週の約1.3倍に増加しました。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

4 流行性角結膜炎

定点当たり2.38人の報告があり、多い状況が続いています。流行性角結膜炎は、アデノウイルスを原因とする急性の結膜炎です。感染力が強く、小児から大人まで幅広い年齢層で見られます。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	増減		
												急増減	増減	微増減
インフル	インフルエンザ	1	0.03	0.42		小児科	ヘルパンギーナ	18	0.82	0.42	↑	急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
	新型コロナウイルス(COVID-19)	87	2.49		◇		流行性耳下腺炎	2	0.09	0.09		増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
小児科	RSウイルス感染症	23	1.05	1.17	◇	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		微増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
	咽頭結膜熱	13	0.59	0.44			流行性角結膜炎	19	2.38	0.40	◇	横ばい	↔	ほとんど増減なし
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	3.00	1.41	→	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。		
	感染性胃腸炎	148	6.73	5.29	→		無菌性髄膜炎	-	-	-		インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む) 35		
	水痘	6	0.27	0.19			マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.03		小児科定点数 22		
	手足口病	123	5.59	0.70	◇		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		眼科定点数 8		
	伝染性紅斑	9	0.41	0.06			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4	0.57	-		基幹定点数 7		
	突発性発しん	5	0.23	0.36								(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)		

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	44	90歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	3	11	10歳代・O115・1人、40歳代・O115・2人
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	14	60歳代、80歳代
5	梅毒	3	58	20歳代・2人、50歳代・1人